滿州日報

紅糧價錢五吊四百文至五吊
第二共上車三十餘輛
邊貨共來七十餘輛
元豆六吊九百至六吊八百

一連紙　一連　一圓
一フールスカツプ全　四圓
一中判洋紙全　二圓
一半紙 野紙　百枚　二十錢
一卷紙　四十枚續　十四錢

一椅子　一圓五十錢以上四圓五十錢
一簞笥　三十圓以上三十五圓
一卓子　四圓五十錢以上十三圓五十錢
一卓子掛　六圓以上十二圓
一廚房用戶棚　七圓五十錢以上十圓

一縞毛布　一枚モノ　四圓以上六圓五十錢
一長火鉢　八圓以上十一圓五十錢
一箱火鉢　二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢　一對　六圓以上九圓

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登一月者每行每日一角登長年者價當面議
從減　每張四百文

告示

大日本帝國營口監督與　為
出示曉諭事照得貨財為商業發達為之資幣制實貿易繁興之具故必法歸畫一乃可通行更須製造無訛始堪信用熟考當埠幣制雜亂紛繁貴賤低昂莫知所向故有愛英洋錢有好人龍錢有擇大邊錢者他若抹銀錦寶小洋錢等製造不同嗜好各異不可名為流通貨幣又不適為公認法貨至於軍用手票大軍所用庶民咸悅今南滿洲到處通行當埠亦交易稱便然自平和克復後逐漸收回代以橫濱正金銀行牛莊支店鈔票關東總督告示確有明文橫濱正金銀行所發鈔票其持至該銀行兌換需用者立將品質九成色之銀圓兌換故自今未盡收回之手票與鈔票銀圓皆為當市之流通貨幣用此等銀錢充兌買賣存欠各賬目實為公認法貨其他貨幣除合意交易外不為公認自示之後仰闔埠人等一體遵照勿違
特示
右諭通知
明治三十九年二月

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
橫濱　神戶　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話十番支配人室　百八番事務室

橫濱正金銀行牛莊支店

賣捌並廣告取次所

大連市稜岐町三百三十八號　**日華運輸公司**
大連市盤城町四十九番地　**岡野新聞舖**
奉天大南門內景祐宮胡同　**全泰號**
遼陽　遼陽俱樂部　**谷口今朝太郎**

三井洋行

倉庫部

啓者本行開創在中外通商各埠己有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷着

●精製白砂糖新入荷物あり

今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候
(電話百二十八番)

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印幷一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋綫鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨為幸

運輸部
這般特得官准開設火車轉運行於東西兩店幷牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中賴之助謹白　電話　東店五五　西店一〇一

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口慶東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼營有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人　葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物幷代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚週通知之
正理事　瀋玉田　副理事　金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外　士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號

係裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

代代木烟公司

本行專售　日本官造紙烟　星象牌(斯達)櫻花牌(撻利)百合花牌(利利)均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價値極廉諸尊欲講可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪丸三組精造東洋緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖面閱是幸
田中牛莊分莊謹啓

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需國本主人啓

明治火險公司

三井洋行經理

本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一核章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議 (電話六十六番)

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尙遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口　瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生倘額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白

營口瀛華實學院

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部
河岸通(電話五十二番)

東營口郵便局東隣
●**島田洋服店**●

新民屯停車場前
●**同　支店**●

M. Iizuka,

Contractor,

Architect and Civil Eginneer.

Plans and specifications made to order.

Estimates submitted.

MODERATE RATES.

No. 151 Yuwansinmiao

Ying Kow

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
△姙婦の入院を諾す(取扱主任産婆大道しげ子)
院主　森
醫長　鈴木昌平
營口永世街 (電話一五五番)

Rates of Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

告料
一ヶ月以上　銀十五仙乃至十仙
一ヶ月以內
一長期連揭減價面議

發行所　清國營口中盛街　滿洲日報社 (電話二九番)

秋田洋行

營口永世街第一八四號平野町

本店　下關　秋田寅之輔商店

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

材木　荒物　販賣

和泉洋行

營口商業學校招入學生

本學校由客春開學以來肄業諸生頗著成効玆因添建樓宇增設講堂應需器具種々皆備現擬招入第二次學生

宗旨　造成辦公實業家
學科　修身、漢文、詞章、習字、算術、圖書、地理、歷史、理化、商律、簿記、理財、商品、商業學、日語、英語、体操
學額　五十名
資格　十五歲以上文理明通者
學費　特免惟寄宿舍生自備饌費餘皆本校墊辦
入學　陰曆三月初一日
夜班　專爲有志向學而白晝忙於謀生者計每晚兩點鐘之功課授以漢文算術商業學日語以一年爲限
○欲覽各樣詳細章程可到本校索閱

上海　中井洋行

專運日本各式紙料

本行開設已歷多年曾與日本製造名廠有專銷之約凡新聞紙料印書稍各式紙莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙料五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也
中井洋行

東洋號運貨局

本局新設新民府今經官准由新民府至奉天輕便鐵路開辦運貨凡鐵路運貨比之車運速而廉衆人所知也本局所辦事宜誠實爲旨懇切受托童叟不欺且運費格外公道以籌貨主之利便不論貨種多少論担算或論噸等本均可倘有遺失壞本局照價賠償若需客票本局亦可人代買如蒙仕商賜顧請至本局或奉天支局面議寄貨可也特此週知
新民府輕便鐵路火車站東洋號運貨局本店
奉天輕便鐵路火車站東洋號運貨局支店

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物產合名會社
牛莊支店
(電話六十六番)

東清鐵道　裕和盛運輸局

(電話百八十一號)
在東營口西北街旗昌洋行對門

啓者本號向在日本長崎開設數十年幷分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專辦中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理主人周鶴雲
主任高濱嫾太郎謹啓

電氣諸機械

大販賣

本店　天津日本租界電話二〇〇
支店　營口永世街甲二一五號

三友洋行電機部
(電一五四番)
主任　朱牟田寅吉

自造煉瓦●瓦
並に各種石材販賣
營口青堆子
加州組
(電話八十六番)

東京電報

●日清銀行案と秘密會 日清銀行建議案委員會は今日秘密會を開き協議せり（三月九日發電）

鐵嶺電報

●露國總領事の來任 元營口駐在露國領事グロワー氏は今回横濱駐在露國總領事として來任することに決定せり（三月十一日發電）

●日露戰役紀念祝典 本日日露戰役紀念祝典擧行さる土屋中將以下會する者數千人宴會席上師團長の挨拶あり續て陛下の萬歳を三唱し各種の餘興あり殊に假裝美人の塲內斡旋は來會者に一層の感興を與へ近來の盛觀なりし（三月十日發電）

北京電報

●李蓮英罷免の虛傳 李蓮英か西太后の怒に觸れ內監を免せられたりとの說は全く訛傳にして實は李蓮英か年老と外國の風評面白からさるを理由として辭職申出てしも西太后より優渥の旨を賜はり辭職允されす目下依然宮中に在りて就職し居れり（三月九日發電）

倫敦電報

●佛國內閣の總辭職 佛國衆議院に於て寺院の財產目錄調製の方法に關して政府攻擊の議論沸騰し政府は二百六十七票に對する二百三十四票の少數を以て敗北し內閣は總辭職を爲せり

●モロッコ會議の好望 アルジエシラス會議は益々和衷的傾向を示し獨國は遂に佛西兩國にモロッコ國の警察權を委任することに同意すへしと信せらる

●歳費支給案通過 英國衆議院は百十票に對する三百四十八票の多數を以て議員に三千圓の歳費を支給すへき決議案を通過せり

●佛國の戰艦新造 佛國は一万八千噸十八海里の戰艦六隻を新造する計畫なり

●窮民救濟の運動 加奈太國トロント市の日曜學校聯合會は日本に於ける饑饉民救濟に對して熱心なる運動を開始せり（以上三月八日發電）

●議員歳費と首相 英國首相バンナーマン氏は衆議院に於て議員に歳費を支給することは主義に於て同意を表すれども政府は直に之れを實行すへき時日と金とを有せさる旨を述へたり

●英國首相の言明 同首相はトランスバール殖民地に對する憲法調査の爲めに委員を同地に派遣すへき旨を言明せり（以上三月九日發電）

●市長の林大使送別宴 倫敦市長は賜暇歸朝の途に上らむとする日本全權大使林男を招待して送別の宴を張りたり宴席に列したるは著名の人士にして市長は林男の功勞を賞讚して送別の辭を述へ林男は之れに答へて日英同盟は世界平和の最良保證の一なりと云へり其後ち市長はマンションハウス募集饑饉民救濟寄附金の第一回受領額として金五万圓の爲替券を林男に渡したり林男か英國に於て今日迄に受領せし寄附金の總額は金拾五萬圓なりとす（三月十日發電）

雜報

●鐵嶺近狀（下）

▲邦人側の商業に就ては別に述るに足る程の者之れ非るは實に前に述へたる如くなるか強て之を述ぶれは其店頭に陳列せらるゝ所の商品は槪ね雜貨品とす然かも其雜貨品は復た大抵酒保品の殘にして所謂支那人向き雜貨品に至りては眞に數ふるに過さす雜貨品に次て散見せらるゝ所の物品は材木なるも其種類は大分部修繕用にて支那人を目的に販賣せらるゝ者に非す從て其數量も亦た頗る僅少なる如し唯た最近に於て英治洋行より米利堅粉、砂糖、綿布、等の物品を輸入し公議會員其他清人中の主なる實業家に運動して取引を開始せんと運動しつゝあるは賞するに足るとや云はん聞くか如くんは其他尙は兩三名の目下頻に支那人との取引に付き研究中に在る商人ありと而して傳ふる所に依れは是等商品の取引は土人に於ても甚た歡迎の氣味之れあり頗る好望にして將來は益々有望なる如しと唯た同樣の取引を目的とする者は支那商人中にも固より少からされは豫め其覺悟あるを必要とする也

▲以上の諸品に次て石油も亦た有望の商品なる如し但し氣候少々溫暖に向へは馬車に使用せる馬は耕作に使用するに至るは一般の習慣にして寒氣の減少と共に勢ひ馬車の不足を生し從て運賃の騰貴を見に連れて又た需用區域を減少し價格の低廉なる如き事あれは注意を要すへし尤も斯の如きは僅に一時の現象にして氣候更に溫暖となり河水、融解せは馬車に代ゆるにジャンクを以てし再ひ運賃の低廉を見る也固より舟楫の便無き地方は爲に運賃に異動無きは言を要せさる所と雖も一般に於是再ひ從前の狀態に復す而して氣候の加減に依りて以上の如く運賃に高下を生し從て亦た需用額に增減あるは復た勿論單に石油に限る次第には非る也

▲鐵嶺に付て終に述ふ可きは商品陳列所なるか其位置は元病院跡にて目下建築班に依り修繕工事中也、陳列所に對する一般土人の意向は歡迎に在りて昨今既に陳列の申込盛なりと云へは愈々開設の曉は蓋し中外の喝采を博するに足り好個の紀念館として長へに鐵嶺の一見物として存在せんか復た以て文化開發の間接機關と謂ふへし云々

●開平炭礦の窮境

關東總督府の囑を受け彼英人の經營になる開平炭礦の現況を視察して歸達せる滿洲試驗農園會の理事高野邦基氏が同總督府に報告せる梗槪なりといふを聞くに同開平炭礦に坑口三あり本坑は光緖元年の開掘に係り炭層三あり上層は地下四百五十尺の所にあり中層は六百尺以下にあり目今支坑と坑道を共にするに到れり下層は千二百尺の地下にあり坑道の最遠距離は六清里に達せり而して開掘採炭の年や古し既に上層は炭層皆掘盡されあるが如し而かも最も炭量豐富なる第三の炭層は昨年十月水脈にや掘當てたるもの歟滔々出水坑道皆水を以て浸さる而して當事者は之れが救濟に努めんとして種々に策を建て計を講して排水に從事せんとしたるも出水量は排水量に加倍し加之時恰も舊正月に迫りたるにより勞働者皆多くは休業歸鄕するにいたりしかば左なきだに滔々湧出する水量は倏ちにして第三層を浸し盡すにいたれり出水前に於て一日千二三百噸を發掘せる本坑今や一日平均僅かに二三百噸の出炭量を得るに過ぎず▲支坑なる西新井は光緖十二年の開坑にして一日百五六十噸宛を採掘しつゝあり▲支坑古冶は光緖十五年に開坑したるもの目下一日五百噸宛の出炭を見るも炭質良好ならす且殆んど粉炭なれば其需用先きは頗る狹し▲商略上然るか否我之れを知らすと雖も英人は開平炭礦の悲境に陷り一日の出炭額實に十分の九即ち一千噸以上減額したるを以て秘密に附し力めて世間に其事の眞相の聞えさらんことを欲しつゝあり之れか爲め開平炭價は頗る暴騰し從來天津にて塊炭一噸八圓五十錢位なりしもの今は現に十七圓以上の價格を保持せり▲同開平地方に森林なし故に坑木と稱して坑々に用ゆべき用材なし若しこれを遠くに仰かんとするも其値たるや頗る高價到底之れか供給を仰く經濟上許さゝる所なり茲に於て一策を案し同炭礦は坑道之れを煉瓦を以て設備することゝし僥倖にも炭層の上地皮を包む所のものは石灰巖若くは結晶巖なり此結晶巖を採つて煉瓦を製造し專ら坑內の用に供せり同構內に一回五千個を仕上ぐべき窯二十個あり一回十万個を製作するを得べして即ち一個月三十万個の耐火式煉瓦を得則ち之れ專門に坑內設備の用に供せり其他に石灰製造品一個所あり▲同總理は英人チーシヨン氏にして天津紫竹林に居を構えて住む而して同炭坑の技師長は英人パークンと言へる人にて專ら同炭礦の事に干與鞅躬す▲同英人の係る同炭礦否同炭礦は採炭といふより賣炭といふ事に重きを置きたるの蹟歷々として見るべし然り如何なる一小驛と雖も開平總局賣炭塲なるものを設けて需用に應す彼等は實に掘るといふ事より賣るといふ事に重きを爲す所以ならすんばあらず而して關の內外鐵道は夜間運轉を爲さす此運轉を爲さゝるは（如何なる契約になりたるやを知らす）開平總局か自巳所有の瀛關車及び臺車を以て石炭を運搬す要するに彼れは關の內外鐵道か夜間運轉を爲さゝるを以て特に廉に鐵道の使用權を獲得したるに相違なきを思ふ▲要するに彼開平炭の出炭減少の機に乘し我撫順炭の發賣を試みなば或は大に效を奏して將來上んで撫順炭の販路擴張を見るべき也（安齋生投）

●六十一聯隊の陸軍紀念日會

曩に陸軍大臣は三月十日を以て陸軍紀念日と爲すことを布達したれば海の內外に駐屯せる我陸軍諸隊は此日孰れも盛大なる紀念會を開催したるならん牛家屯に駐屯する第六十一聯隊も亦其數に漏れず此日盛大なる紀念會を催ふし以て懷舊清談の一日を樂め午後一時よりは兵士諸君の意匠に成れる種々の餘興あり就中六一團明治座の演劇の如きは頗る繁昌を極めたり無邪風なる兵士等は無邪氣なる手踊り軍談劍舞等に高笑拍手し嬉々として愉快なる一日を送れり夕刻には聯隊本部に於て紀念宴會あり食室に集れるは來賓瀨川領事北洋軍第十聯隊參謀長潘氏阪東一等主計等を始め聯隊附將校及第三大隊將校各位四十餘名なり聯隊長三上中佐肅然として起て曰く本日は征露戰役中最も紀念とすべき奉天戰役の一周年なり顧て當時を懷へば轉た夢の如し此役や曠古の大戰鬪にして日露兩國の位置を定めたる大決戰なりき我等軍人は此紀念日に當り往時を追懷すると共に益々忠魂義胆を練りて邦家前途の進運に資せさる可らず膳に上れる酒肴は不細工なる兵士の手料理なりと雖も希くは寬談痛飲せられんことをと瀨川領事起て曰く本日は啻に陸軍の紀念日なるのみならす我國民全體の紀念日なりと爲す我が在留同胞は軒頭國旗を揭げて敬意を表し居るなり御列席の將校各位は當時の大戰に參加せられ苦戰奮鬪遂に大敵をして再び起つ能はさらしめたり其功勳や仰ぐべし然るに引續き當地守備として不自由なる土地に駐屯せらる其勞苦や我等の感泣する處なり希くは邦家の爲め自重せられよと領事音頭にて六十一聯隊萬歳を三唱し次て三上聯隊長の音頭にて兩陛下の萬歳を三唱したり斯くて戰爭當時の懷舊談は所々に高談せられ津田少佐長谷川副官等は酒を侑めて欵待に奔走せられ一同歡を極めて撤宴せしは午後十時頃なりき

●昨年解氷當時の模樣 本年の解氷時期は之を豫期し難しと雖も今日の暖氣にして打續かば兩三日內には解氷し始むるに至らん昨日も矢張り橇の交通之れありしも皆厚き部分を撰びて走る有樣なり昨年の解氷當時の模樣を見るに例の貨物を滿載したる荷馬車は三月九日限りに在り（本年は荷馬車の往來するもの甚だ少なく二月上旬に時々見しのみなり）十三日には西稅關前は破氷して午後には舢舨の往復するに至り十四日には太古洋行前より下流は解氷し舢舨の交通自由となる但し東稅關前は矢張り橇盛に往來せり十八日に瀛船三光丸（百六十餘噸）午後三時半無斷にて入港し廿日には牛家屯沿岸を除き港內全部解氷し二十二日午前七時に三光丸は河北停車場の下流千メートルの處にて流氷に觸れ沈沒し又此日に五十石積みの小ジャンク一隻山東省萊州府より白菜を滿載して入港せり此れジャンクの初入港なり二十七日に至り港內の流氷殆んど全くなくなり早朝帝國水雷艇第五十八號及び第四十五號の二隻入港し威風堂々軍艦旗を飜へし二十八日に至り一般の瀛船續々として當港開港以來の盛觀を呈したり

●募集義捐金の送附

曩に本社が東北凶作地窮民の慘狀を思ひ其救恤の一助として汎く內外の志士仁人に募るに義捐金を以てするや**諸君の義俠にして同情に敦き**本社が微意を諒とし義資を喜捨せらるゝ者陸續相繼ぎ遂に期日に至りて**其金額積んで四千七百九拾二圓九拾五錢に及び人員亦一千六百拾九人の多きに達し**其金額に於ても其人員に於ても極めて滿足の結果を見るに至れるは翅に凶作地窮民の深く其高義を德とする所なるのみならず亦本社が企ての徒爾に終らざりしを喜ばずんばあらず喜捨金員は去る十日を以て全く集金を終へたるを以て**翌拾一日正金銀行營口支店に爲替を取組み東北三縣救恤會へ送附し**其配分方を依賴したり即ち其精算槪要左の如し

義捐金精算

一銀三百六圓 外國人十一口
一銀一千七百三十六圓八十錢 清國人五百五十九口
一銀二千七百二十四圓九十錢 日本人一千〇四十九口
一銀二十五圓二十五錢 山金扱人員不明
合計銀四千七百九十二圓九十五錢
內
一銀四千七百七十圓（三月十一日送金）
此換算金四千七百二十二圓三十錢
一銀五圓二十錢（三月十三日送金）
一銀十七圓七十五錢 諸費用

即ち罹災地へ送附せる金額は差引銀四千七百七十五圓二十錢とす本社が此企圖を發表するや本願寺寺本布敎師日本基督敎青年俱樂部佐藤牧師等最も贊成の意を表して各〻熱心に勸誘の勞を執られ又正金銀行は送金に當り無手數料を以て送附方を諾せられしは本社の最も感謝する所にして殊に山金飮食店が義捐函を設けて其擧を助けられたるが如きは厚意多謝するに餘りあり今や送金全く終れるを以て聊か顚末を記して義捐諸君に告ぐと云爾

三月十二日 **滿洲日報社**

●遼河の解氷期 遼河の解氷は果して何日に在るか其期日に付き在留西洋人就中水先案內者等は其說を爲して曰く昨今の天候に於て異狀なく進行せは其解氷は一週日の後位と想像して可也但た案せらるゝは過日の降雨也蓋し過日の降雨は南風に基く者なるか從來の例に徵せは此節の南風に對しては更に復た必す北南の返しあり即ち若し其返しあらは天候は爲に再ひ多少の變化を免る能はす從ふて解氷の時期も亦た延引せさる可らす然れとも降雨後、三四日を經過せる今日迄、少しの其返しらしき者のあらさるに觀れは本年は最早、返の心配は無からんか果して然らは今後の天候には格別の異狀もあらさるへけれは來る二十日前後には解氷を觀て遲くも二十四五日頃に及へは瀛船の自由出入を見るに至るへし云々因に一昨々日併に一昨日の大潮の爲には氷も大分部解けたるならんと云ふ

●白河の解氷 天津より來營せし一商人の談に曰く天津は既に河水解氷し商人は漸く多忙を感するに至れり云々

●奉天の氣候 奉天歸客の談に曰く奉天は營口に比較せは未た大分寒冷にして昨今に於て地上は尙氷結し殘雪亦道路一帶に之れあるを見ると

●興倉長官の歸營期 營口軍政官興倉中佐は來る二十日頃を以て東都出發歸營の豫定なりしも都合上更に數日を延期するに至りたりと一二日前某氏の許に通知ありたりと云ふ

●博覽會準備委員一行 博覽會の準備委員一行か近々來營すへきは過日の本紙に記載せし所なるか果して其一行は一昨日を以て來營し軍政署領事館併に正金銀行三井洋行等を訪問し出品其他に關し種々盡力を依賴し昨日を以て大連に向け出發せり因に一行中の工學士村上亨一氏は獨り昨日も尙は滯在して營口に就き種々調査中なりしか本日同く大連に向け出發すと云ふ尙ほ以上の一行は大連に於て二三日間滯在の上事務の打合せ其他の爲に一應歸朝すとなり

●氷上の步行難 昨今の暖氣にて遼河の沿岸は一帶に大分融解し所々に所謂ムラを生し居れは步行に充分の要意あるに非れは頗る危險なりと云ふ因に例年解氷前には少くも二三人の氷上を步行し誤つて溺死する者あり即ち其の溺死は解氷唯一の前徵なりと知らす本年の解氷報告者は果して何人なるか

●歸化の希望者 今次の戰役に依り帝國の國狀を聞見せし土人中には國籍を移轉し以て將來日本帝國臣民たらん事を希望する者も甚た少からす現に營口相當の人士間にも此種の希望者隨分之れありとなり

●營口開業醫師の會合 當營口の開業醫酒井鈴木の兩氏は營口に醫師組合の組織なきを遺憾とし兩氏の發起にて一昨九日營口の開業醫數名と醫院に會し規約の草案藥價手數料の規定等を協議せし由因に本規約編成は軍政署當局の意向を質したる上發表すと云ふ

●小氣燄 加藤外相鐵國案の爲め冠を桂けて去る近頃見上げた見識だがあれは鉄道往生をやつたのぢや背後に三菱が無ければ何にもさう角立つて爭ふ必要も無いのである（空砲生）

汽車開行

▲上行車時刻表

車站名	開車點分	到午點分
新民屯至溝邦子	上 六、〇〇	上 九、五七
營口至山海關	上 八、二〇	下 六、〇〇
山海關至唐山	上 一二、一八	下 六、二〇
山海關至天津	上 五、〇〇	下 五、五五

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上 八、〇〇	下 六、二〇
北京至天津	上 一一、二〇	下 五、四〇
天津至塘沽	下 二、[illegible]〇	下 八、三〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間 下り列車

驛名	發着	時刻		
大連	發午前	九、〇〇		
金州	着	一〇、〇九	發	一一、二九
大石 [illegible]		[illegible]		

驛名	發着	時刻		
遼陽	着午後	三、五〇	發	四、五五
大石橋	着	一〇、三二	發	一一、三五
金州	着翌前	二、二〇	發	三、一〇
大連	着	五、三二		

大連旅順間 下り列車

上り列車

旅順	發午後	二、〇三
大連	着	五、三二

營口線 下り列車

大石橋	發午前	[illegible]、〇〇
[illegible]		[illegible]、五五

天氣

營口地方天氣豫報 自三月九日午後六時至三月十日午後六時

北の風 晴

小説　新作小説 おとし胤　（十）

徳田秋聲

光は、熱ツと耳を濟して、能く祖父様の話を聞取ツた。そして何んでも祖父様は、光の父を深く怨むでゐることだけ解ツた。怨むでゐるけれども、舊主といふ義理が搦ツてゐて、一徹の昔氣質で怨を怨とされぬことも解ツた。雖然怨の因が解らぬ。

そこで光は訊いた。

「ね、お祖父さん。お祖父さんは、私の父様と仲が好くないんですか。」

「然うさ。仲が好いも悪いも、舊の御主人ぢやから彼是謂へるものぢやない。けれども俺は少し氣に適はん方ぢやから、それで何時も無沙汰勝ぢや。」

「では、私の父様は、お祖父さんに、何か悪いことを為すツたんですか。」

「然うさの、まア然うぢや。其方はまた、何故其様なことを訊くんだ。」

「だツて、何か深い因があるから、お祖父さんは今まで父様のことをお話しなさらなかツたんぢやなくツて?」

「然うだ、其に違ひない。」

「然うすると、お祖父さんは、何か母様のことで、父様を怨むでゐらツしやるのぢやなくツて?……然うだわ、乾度然うだわ。加之母様は、大變苦勢をなすツて、遂々夭死を為すツたんだといふし、私、乾度然うだと思ツてよ。」

「其の通りだ！」

と寛齋は、心苦しげに謂ツた。

「一体父様は、何様なことを為すツたのでせう。何ういふ因で、父様は、母様に苦勢を掛けて夭死をなさるやうなことを為すツたのでせう。」

「不義！」と謂ひかゝツて、寛齋は口を噤むで了ツた。そして厳に、「其方は、其様なことを訊くものぢやない。何んにも知らずにお在て！……知らずにゐるのが結局幸といふものぢや。何が何んでも、其方の父様は、其方の父様ぢやから、孝養を盡さなければならんよ。だが、光。其方は向剥海鹿家の家庭のことを謂ツては、其方が彼様なことを知ツてゐる筈が無い。誰かに聞かんたが、ありや誰に聞いたのぢや。誰かに聞いたのぢや、え、誰に?」

光は、嘘を吐いたり、物事を隠したりすることが出來ぬ。

「そりや誰かに聞いたのよ。」

「誰に聞いたのぢや。」

彼女は、巨漢との約束も守らなければならぬ。それて、

「それは謂はれません。」

「それでは何處で聞いたのぢや。」

「それも謂はれません。」

「はてな、妙なことをいふの。何故謂はれんのぢや。」

「だツて約束したんですもの……」

「然うか、其ンなら強ツて聞くまい……」

と謂ツて、寛齋は熱と考込む。良刻話は途斷れたが、光は卒然と、

「ね、お祖父さん、其様な父様なら、私東京へ行くの止しませうか。」

「何故?」

「でも私、お祖父さんの嫌な父様の許へ行くのは嫌ですもの……加之設好な父様にしても、お祖父さんが行ツて可けないと有仰れば行かないわ。私、何方でもお祖父さんの思召通りにしてよ。」

「可けない可けない。何も俺に義理を立てることは無い。其方は、父様に逢ひたくてならんのぢやから、兎に角一ト先づ東京へ行くとするが可い、のう。また考へて見るに、俺は無理にでも其方に東京へ行ツて貰はんければならん……行ツて貰はんと、私の義理が相立たんことになるのぢや。其方を此處に引止めて置ては、怨を怨とするやうなことになるのぢやから。何うでも其方は東京へ遣らんければならん。俺は、何も彼も諦めたから、俺のことは案せずに、快く東京へ出發ツて呉れ、のう。」

此處で寛齋は言を途斷らせて、耐え難き胸の悲痛を耐ゐるかと思はれた。夜は更けて、大きな家は寂として何んの物音もせぬ。

寛齋はまた、言を繼いで、

「ぢやがの、光。此の後、何様なことがあツても、誰にも父様と母様との關係を聞くんぢやないぞ、可いか。また誰が父様と母様の關係を話しても、それを信じてはならんぞ。此の廣い世界に、其の眞箇のことを知ツてゐるのは、此の祖父と、其方の父様と母様の三人しか居らんのぢや。今では、祖父と父様の兩人だけぢや、可いか。もしも誰かに好い加減の事を聞かされて、それを信じると、其方は乾度不幸な者になツて了うぞ。それからの、其方も是から、女になるのぢやが、親の宥した正い夫の他は、決して〳〵他の男に思を掛けるやうなことがあツてはならんぞ。何様な男にもしろ。それが身分が高くても、優しくても、男を見たら讐と思へ！

これが母様が其方への遺言ぢや。」

●奉天の博覽會

▲今回來奉せる村上享一氏の談に依れは近々の中に於て奉天に開催せらるへき博覽會は其會場としては元總司令部跡を借受る筈にして全所は土地坪數より云へは二千四五百坪もあり更に建物に觀るも六百坪以上あるに尚は少くも二百坪位は新に建て増す積りなれは相當の出品物を陳列して廣く内外人一般の縦覽に供するに足らんか云々

同氏は更に其規模に就て語つて曰く今日に於ける經費の豫算は二十万圓前後にして其陳列棚は延長一千五六百間に及ぶ見込なり尚は以上の陳列棚は二分して其一方には主に内地の出品者の出品物を陳列し他の一方には又た主に在住同胞併に清國人等の出品に係る品物を陳列する考案なり、而して博覽會の開期は今日に於ては約そ三ケ月位の内定なるも開會後の模樣に依りては或は更に多少の期日を延すやも知らす

▲尚は同氏は終に於て開會の目的に付て語りて曰く今回の博覽會は其目的三あり就中其二は博覽會の性質上當然起る可き普通の目的なるも其一は本會の開會を幸に廣く内地の同胞を滿洲に引き寄せ以て親しく土人の耕作の模樣製造の方法其他滿洲一切の事情を觀察せしめんとするに在りて實に日本の博覽會に於て從來嘗て其例無き特殊の目的とす此の目的を貫徹する上に於て必要なるは出品物併に縦覽者に對する海陸の運賃なるか各滊船會社及ひ鐵道會社共幸にして大に其目的に贊同し中には當方の交渉を待たす既に今日に於て運賃の割引を提議せる會社もあれは愈々當方より交渉を開始するに及へは無論何會社も割引上寸毫の異存之れ非るを信す云々

東西叢話

▲名將の頓智　スウヲーロフは露國の名將なり一日レピン公は其愛する中佐某をスウオーロフ將軍に遣はして何事かの祝詞を述へしめたるに頓智に富める將軍は該中佐をして狼狽せしめんとし俄に問ふてレピン公と余との差は如何そと云ひけるに機敏の中佐は更に狼狽の色を示さす直に答へて其差はレピン公は余を大佐に昇進せしめんとするも力及はざるに閣下は一たひ希望せらるれは即ち成るにありと云ひけれはスウオーロフ將軍曰く大佐殿よ足下の昇級を祝すと

▲風變りの遺言　近頃伯林に一富豪の死したる者あり親戚中の强慾なる者は氏の巨万の財産を利用せんとして一日も早く死ねかしと希望する者ありしか死するに及ひ公證人は直に親戚を集めて其遺言狀を開封したるに「親戚中余を墓まで送らさる者は三百馬克宛を得へく自餘の財産は埋葬の後開封する遺言狀に應して分配せらるへし」とありたるに墓まて送りたる者は故人の遠親なる一老婆のみなりき、而して埋葬後開封したる遺言狀には左の如く記せり曰く、余の遺産全部は我が親戚中三百馬克を受るを辭して我を墓まで送りたる者の所有たるへしと

▲結婚と肺病　某ドクトルの説に依るに妻帶者の死亡は獨身者及ひ鰥の死よりも著しく少しと雖も有夫の婦人の死亡は寡婦の死亡より多く就中年若き寡婦の死亡の數割合に多し、男子の肺病に罹りて死するもの女子より多きも妻帶の男子は有夫の婦人に比して死すること少し最も多く肺病に罹りて死するは三十歳乃至三十五歳の獨身者にして總体男子中肺病にて死亡する者一割八分乃至二割二分を占むる云ふ

▲嫉妬の制止方　一日某紳士友人に謂て曰く貴下の夫人は今尚貴下の夜間遲く歸らるゝ時罵り騒がるゝやと問ひしに友人曰く否とよ余は彼の女をして此習慣を制止せしめたり紳士曰く恐らく僞りならん……併し貴下は如何にして制止せしむるを得たるや、友人答へて曰く甚た簡易なり余は近頃夜間決して外出せす

戦役所感　岩城黄雨

皇業貳千六百年　誰汚旭日東海天　忠臣常顯全天爵　何當外患待世賢

出征偶吟

人生過半恥無爲　報國捐身元所期　盛世幸遭征露後　奮然挺劍入邊陲

從軍野戰鐵道隊

文華全備武殊工　何事野豬出亞東　百戰連戡修大局　却思鐵路不添功

鈴木酔雨

入海やゆんらり〳〵風光る
干汐して岩鼻に猿の魚あさる
屠牛場や牛骨されて土筆生ふ
かゝり凧骨となりたる日數かな
凧揚げや百萬石の御下町

●小僧の手帖　亞細亞の鉄道は印度が二萬七千哩露領が七千五百哩日本が五千哩支那が二千哩

廣告

公告

電話交換加入者募集

當局電話交換加入希望の者は至急申込可し

追而二月十五日以前に申込みあるも未た架設に至らざるものは重て申込を要す

明治三十九年三月三日

營口軍政署電話局

建築請負廣告

弊組儀昨年中官民の建築工事に從事致居候處本年より專管居留地へ各事業家之建築多大なるものと推測し就ては本年より一層事業を擴張し各位の希望に應じ正實と叮嚀を主とし勉强可仕尚構造法等は多額を要せずして強固なる建築法を研究在候間建築御希望の御方は御通知次第參堂御相談可申御注文之程偏に奉願候

建築設計依頼に應ず

營口永世街二本町二百五十八號　工棟組

船舶輸出入　荷物取扱　荷物保管　税關手續

市場北三階樓時計店ノ二階　宮原公司

御旅館　天津　芙蓉館　駐屯軍御用　並西洋料理

萬事勉强乘車乘船好位置

營口中央市場前

旅館　東京樓

店主　熊田兼次郎（電話百七十八番）

即席和洋料理　東京樓支店（電話四十四番）

西洋料理仕出し御需應にず

弊店儀從來平野町に於て左の營業致し居候處此度商業擴張の爲左の所へ移轉仕候間倍舊御引立の程奉願上候

ペンキ塗請負　京阪組

豊濟門街李俊の前

故沖禎介

追悼の爲め江湖諸賢より玉はりたる詩歌書畫を編集上梓して一の紀念帖と爲し度き旨同存父沖莊藏氏より通知有之候就ては其紙數を一葉にても多からしめ以て存亡父子共の光榮を大ならしめ度くと存候間廣く江湖の同情を得度廣告候也

一、刻版は四月中に取かゝる事と存候
一、紙判は美濃紙大
一、沖莊藏在沖繩縣那覇地方裁判所官舍
一、御問合の件あらは左に

新民府奈良崎八郎　營口瀛華學院上野政雄　大清通運公司安田貞藏

同志友人　敬白

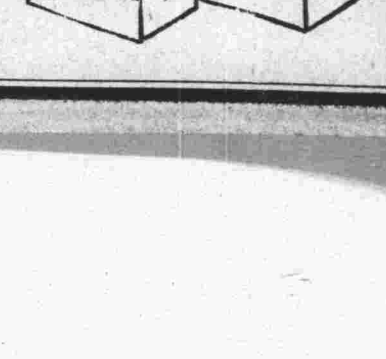
御手輕料理

一釜飯御一人前　銀五十錢
一湯豆腐一銅壺　銀二十五錢
一突出しの外は御注文なければ差上不申候

月　日

營口元神廟街二〇九號

翁亭



營口

本店　彌生　電話四一番

支店　彌生　鐵嶺西門外大街

今回新に鐵嶺支店を設け旅館及會席御料理營業仕候間本店同樣御引立之程奉願上候

一位置　西門より西の方五六軒北側に[illegible]

一構造　室内裝飾等日本式　特別室あり　凡て營口本店の設備に比し優るとも劣ることなし

一待遇　は親切と叮嚀を旨とし調理萬端十分注意仕候

館主　宮下只七郎

奉天日本旅館　瀋陽館

家屋宏壯清潔　接待優遇懇切

開業　放全時一閱
奉天小西門外ナ街路北

會席料理　三日月　營口警務課前南に入る

北京　扶桑旅館　東單牌樓大街路西　客室清潔料理鮮新

軍隊用雜貨
日用品雜貨
吳服太物類
化粧品類 卸小賣
陶器類
食料品類
其外新荷着精々安價販賣
營口永世街七十號(第二市場東)
石原商店

雜貨
醬油
木炭
すし米
清酒 大樽 半樽
營口西北街
阪神組

雜貨卸商
在元神廟營口街
關東公司雜貨部

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137 電話一三七
諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々
今回新荷着致候間直段ゟ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候
謹言

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房
淺田飴
肺癆痰喘氣急傷風痰癖小兒風邪病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣
永世街 東瀛大藥房
房主 藥劑師中馬龍造

石材、碎石
並に自家製造
瓦、煉瓦
廉價販賣
營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)
スペシャルライト賣出し
スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり
釀造元 大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣 關東公司雜貨部

醇良自釀清酒

札幌ビール
朝日ビール
口付莨大和
酢
醬油 瓶詰樽詰
菓子
罐詰 色々
洋酒類
右取次販賣
牛莊港東營口
宅合名會社
營口支店

ゼム口中香藥
財莱者芳香馥郁而美味可愛靈約也
ゼムハ著大ナル効能ト愛スベキ美味馥郁タル香氣ヲ有スル良劑
大日本東京
山崎愛國堂
大藥房處修
大清國發賣處
淺野大藥房
營口永世街(二本町)
各國有名靈藥總發賣處

官製口付莨、文房具
和洋酒類
白米
罐詰、菓子
藥品、雜貨 卸商
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
營口西北街
(土) 豐生洋行
(電話十三番)

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
營口綏定門街
ブツシ商會東
喜川鐵工場

○フレノロジー
○西洋揣骨相術 運命窮通壓々指陳如神矣
○人々の頭腦を觀測して身の上はんだんをなす
○觀測料隨意
營口豐滿門街第四十四號李俊氏宅の西半丁
利生堂

滿洲商業家名鑑發行の趣旨
滿洲は東亞無限の一大富庫と稱せらる之を開發し之を保全するは永く極東の平和を策する所以の一端ならずんば非ず戰捷の効果之を現實せさるべからず朝野の視線一に玆に滿洲經營に傾注さる而して其責任や專ら本邦商人の双肩に懸れり然り現に各地に店舖を開張して直接實際に滿洲の商業を研鑽講究する者或は又徐ろに將來を希圖せんとして來りて準備的畫策を爲す者あり之等商家は實に滿洲開發の先鋒隊たり偵察隊たるなり吾人玆に感する處ありて滿洲商家名鑑なる冊子を發行す蓋し滿洲開發の端緒を啓ひ以て將來大發展の一助に貢せんとするに外ならさる也
滿洲商家名鑑は大連營口旅順遼陽奉天鐵嶺昌圖新民屯撫順安東縣其他滿洲各地に散在店舖を擁して業を營む本邦人を普く網羅し且つ著名商店の現況を仔細に描寫せんとす將又店主若は主任者閱歷性行等を詳錄し汎く之を紹介し以て其信用の程度如何を窺知し得るの便に供し以て商業取引の圓滑融和を圖らんとするにあり製本体裁は菊版本綴表紙總クロス三百餘頁とす一部定價銀二圓
右發行人 安齋源一郎

小生儀曩時營口人名錄編纂中の處當職遼陽日本人會理事に招聘せられ倉皇之に赴き右編纂を中止致候處今度親友安齋源一郎君へ右編纂一切を依頼致候間此段辱知諸君へ御報告申上候
三月十二日
在遼陽 戶水生

(工)
營口元神廟前
飯塚工程局材料部
(電話百三十五番)
弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

旅人宿 東館
大連市信濃町卅九號地
特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

時刻

區間	上	下
唐山至天津	[illegible]	[illegible]
塘沽至北京	上六、〇〇	下二、〇六
天津至北京	上一二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、〇〇	下六、四五
天津至山海關	[illegible]	[illegible]
唐山至山海關	上六、〇五	下一一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下一四、五五
溝邦子至新民	上三、〇〇	下六、五七

奉天驛　上り列車　午後　二、〇六
奉天驛　午前　一一、〇〇

營口　大連　發午前　七、三〇　大石橋着　一〇、四九
大石橋　着翌前　發午後　十〇、二五　一二、二〇

宮門抄

十三日
吏部　翰林院　正黃旗值日內務府引　見四十名　出使大臣孫寶琦到京請　安　雷補同等謝署缺　恩　植公續假二十日
召見軍機　孫寶琦
惲毓鼎遞封奏一件
十四日
戶部　宗人府　正白旗值日內務府引　見五十一名　棍貝子因賞伊子輔國公銜花翎謝　恩　趙秉鈞謝授太常寺卿　恩　毓朗良泰各假滿請　安
召見軍機　趙秉鈞
蔡金臺遞封奏一件
十五日
禮部　太常寺　正紅旗值日吏部引　見五十一名　繼祿因伊弟一等記名謝　恩　許澤新謝授缺　恩　直隸知府恩佑謝　恩
召見軍機　恩佑
政務處遞封奏一件

上諭恭錄

十三日奉
旨翰林院學士着許澤新補授欽此
旨太常寺卿着趙秉鈞補授欽此
十四日奉
上諭崇善代奏黃少春假期屆滿病勢益重懇請開缺等語福建水陸提督黃少春着准其開缺回籍調理洪永安着補授福建水陸提督迅赴新任未到任以前着馬金敘暫行署理欽此
上諭此次內務府三院等處京察一等人員着該堂官再行出具切實考語帶領引見圈出之堂主事重英主事全福筆帖式文珣有慶恭雲增山英紳錫麟增祺漢章廣霖常誕晉昌寶傭長海多蔭恩藻昌祐振麟文通榮桂立順上駟院主事多斌筆帖式錫麟武備院委署庫掌祟綬筆帖式繼勳奉宸苑筆帖式清桂圓明園六品苑丞恒勛八品苑副世貴頤和園六品苑丞榮來翠善筆帖式玉福均着交吏部記名照例選用所有一等官員筆帖式達他等均着准其一等加一級不到之員外郎全善着該衙門查照例辦理至年已逾歲之員外郎文瀛等均着照舊供職欽此
上諭直隸承德府知府員缺緊要着熱河都統會同直隸總督于通省知府內揀員調補所遺員缺着恩佑補授欽此
上諭張曾敭奏查明浙江各屬田禾被災請將應征地漕等項分別蠲緩一摺等因欽此
十五日奉
上諭直隸大名鎮總兵員缺着王英楷補授欽此

論說

論教案宜持平辦理（續）

又徵之德意志。德人之仇視天主教者。歷有年所矣。德相畢士麻克。嫉教甚嚴。檄逐教徒之文。昭昭在人耳目。卒之操縱自如。內收重權。外增保護。制人而不爲人所制。用人而不爲人所用。相業於是乎成。國事於是乎振。民氣於是乎強。教果何損於德哉。要之日本之待教。柔之之意多。而正有法以制之。扶教而抑民。無是事也。德國之待教。制之之意多。而正有道以柔之。長民而弱教。無此心也。柔之以服其心。制之以折其氣。上之有濟於國事。次亦相安於國事。民與教和。教與民睦。兩國之已事固然。然而民教之在我中國。則往往生事者。豈傳教之人。在日本則馴。在中國則驁。在德國則順。在中國則悍乎。吾試爲一抉其由來焉。

一則入教之初。未嘗示以區別也。吾不敢謂入教者之盡爲莠民也。然良莠不齊。或彼以誠信而入教。此以虛憍而入教。夫一入教而即有虛憍之心。則陵弱鄉里。魚肉同胞。勢所必至也。而小民被抑。含怨滋多。乃亦入教以抵制焉。甚至訟事已成。而始奔競夤緣。藉入教以保其生命財產者。有之矣。其徒既多。其類遂雜。主教者或恐其教之不廣。而盡數收容之。其病一。一則民教之訟。未有一定律文也。教士既袒護教民。而官吏以保全名譽之故。又皆曲徇教士。俾民之怨毒日以深。而教案遂日出而無已也。其病二。一則毀教之習。中入人心也。中國未始無他教也。如佛教回教釋教。皆由外來者。而相處既久。習與相忘。獨於西教。則猜之忌之。故教案之起。靡不始於疑案。成於謠傳。辛卯庚子之變。皆坐是弊也。其病三。一則辦教之案。時或出於激烈也。每見地方大吏。平日或不諳外情。凡外人之傳教於其地者。素不相識。一日教案忽起。或不辦其事。而一疑其以教虐民。遂鹵莽滅烈以爲之矣。其病四。察其病之所在而持平辦理。俾教無敗類。民鮮怨心。民與教均得相安。教與民皆有所憚。庶幾杜患於平時。不至失措於臨事。不此之審。而第見民教滋鬧之時。聲威洶洶。幾使玉石與之俱焚。山川爲之變色。而處分未盡合法。或偏袒平民。皆非所以安輯民教之道也。夫天下事惟不平則鳴耳。孰無身家。孰無性命。民與教各有定分。如風馬車牛之不相及。誰肯平地生波。空蹈不測之禍乎。惟是原薄各殊。遂分畛域。畛域已甚。即成寇讎。而匪黨之幸災樂禍者。或借此圖利。以逞其不軌之謀。如一星之火。尺澤之水。始則扑之易。涸之亦非難也。浸假而星火燎原。尺水橫決。到處蔓延。致成不可收拾之勢。何如平之於先之爲愈也。雖然。國家無自強之基。人民無自強之氣。雖妥定章程。著爲律令。無益也。吾故曰輯和民教。於今日有相安之道。而宜濟之以勢力。有萬全之策。而宜捕之以威權。乘此憲政萌芽。新機發現。君臣上下。戮力同心。上利於國。下補於民。所關正非淺鮮。倘何教案之足患也哉。（完）

中外要聞

●要求煤礦　日前法商至外部執意要求開採黔省印江煤礦並言此礦法人曾有集股執照必期外部堂憲准予開採等語

●請禁俄人牛事　昨外部照會俄使稱吉林省時有俄人勾串土匪任意打牲伐木恐與該處居民及打牲業戶互起衝突致生意外之虞爲此希貴公使轉電禁阻以免另生交涉云云

●保教章程　外部會商保教章程擬請各國公使到署叅酌條欵定妥具奏呈覽後再頒發各省昨已稟請慶邸瞿大軍機那中堂矣

●俄約消息　又聞一機秘消息中俄條欵中國決定照開會議俄公使已駁六條但聞黑吉兩省條欵亦仿照日本在奉省樣式一律云其餘未知

●再定議期　茲聞外部最確消息昨照會俄公使再定開議之期俄公使照覆外部俟候本國政府來電再定日期開議云

●電陳庫倫近狀　昨庫倫辦事大臣電陳政府前因俄國匪類在恰克圖地方勾結土匪肆行滋擾勢焰猖獗曾經電陳在案現經派兵各處防剿並有俄兵時來彈壓近日尚屬安謐先此電奏以慰　宸廑云云

●改定官制續聞　昨　兩宮召見軍機徐鐵二大臣面奏將振貝子所奏裁官併署一摺仍請舉辦　太后垂詢頗久着將振貝子所奏原摺交政務處逐條議奏按振貝子原摺實係徐軍機主筆鐵大臣亦贊成此事慶邸此次召見並未奏對

●工部不認撥欵　商部前因經費籌款咨行工部應將解到水利飯銀之款提歸商部以濟急需現在工部片覆所有本部解到水利並花梨木稅等款皆係本部有着之欵無可籌提其餘一切雜款一併奏請化私歸公相應片覆商部查照可也

●咨催開埠章程　奉省趙次帥奏請東省開辦商埠擬訪照雲南山東開埠章程擬辦奏請允准在案聞商部咨行趙次帥請妥速將開埠章程迅即報部以便核議云云

●電催西藏軍餉　聞政府電致四川總督錫清帥略云據西藏幫辦大臣電稱現因彈壓番匪添練新軍每年需欵甚殷所有川省應協之餉務請趕速籌解以濟急需

●釋放粵紳責成辦路　粵督岑雲帥於上月來電請外務部代奏略謂前因粵紳黎國廉自看管後每遇紳商前往探詢總以辦路籌款爲勸各紳商連日在總商會籌議集股認股者頗爲踴躍懇爲奏請先行省釋等情查黎國廉阻撓路政誘國辱官重懲實所應得今既悔悟勸令紳商集股雖股銀未經呈驗而據稱商情踴躍似應准如該局所稟先將黎國廉省釋仍責成將籌款集股事宜認眞勸辦如能辦有成効再行請開復倘于釋後又復煽惑阻撓有礙路政仍當從嚴叅懲乞代奏請　旨廿二日奉　旨電悉着照所請辦理欽此

雜報

●鏢夫拒賊被創　本埠萬順鏢局前數日保送貨車十數輛着鏢夫四名押護昨聞有鏢行人北來云該貨車至瀋陽八里庄地方突由東南擁來馬賊十數騎勢甚猛鏢夫見勢不祥以車爲屏鳴槍拒之兩相攻擊多頃一鏢夫左臂被創一鏢夫双胯被子彈射透正在危急賊忽嘯群遁去皆不解何故既聞有查道兵隊由東來賊見驚遁幸未刦去貨財云

●白晝竊物　關帝廟西南第七區居民劉姓前日午飯時有一賊掩入其廂房見櫃筒鍵鎖遍搜得鑰匙啓櫃竊取衣服首飾約直百元荷出門外適遇向劉家邀各者某甲賊乃自語此些物件能質典幾何甲疑向劉家借財物者既至劉家邀各末言適一人衣甚華美荷一包衣服質典伊誰耶劉家舉訝不知始悉被賊掩竊迫出門追賊已無踪影云　又昨晨該處居民有楊泰發張洪鈞二人瞥見一人年二十餘衣帽華美連次掩入三家或被人冲或被犬逐楊張二人涉疑後窺其潛入十字街南唐姓家搴簾悄入室內無人時唐婦由對屋來問爾爲誰賊託言某洋行者特偪縫紐婦大怒正在喧噪而幼張踵入盤詰知爲晝賊無僞即行捉出極擊洽值巡查來便執送第四派遣所聞於賊腰搜出典票數張皆前昨連日質典者四針博威表一枚常表一枚金馬蹬二枚供係埠東虎犴屯人氏宋姓蓋前二日李劉二姓所失之物皆其一人竊取云

NEWCHWANG, TUESDAY, MARCH 13, 1906.

THE RUSSO-CHINESE CONFERENCE. (PART VI.)

The vilest villain can in the drawing-room play the spotlessly honourable gentleman. It is when time has ripened his deep-laid plot or the bald Opportunity, galloping up into view, the black heart, crying out within "Now or never!" urges to catch at the 'rider' by the forelock that he drops off the saintly mask and his sweet pacific professions give place to the relentless extravagant demands of the iron master of the situation hurled in the face of his deceived prey.

China has apparently wandered out, since the close of the late war, into the bewildering maze of a most absurd foreign policy, in the shape of the treatment of all the Powers on an equal footing in the matter of favours. The farther she trudges on, the more she seems to be lost in the depth of thicker jungles alive with fierce beasts. It was sheer madness for her to have entered upon so ridiculously nonsensical a line of policy. For, nothing will more quickly and surely turn away from her in disgust and despair the few honest, staunch friends who have proved beyond all doubt their thorough reliability, only to give a keener zest to the avidity of her enemies, at whose hands she has already suffered so severely. Upright and patient as they are, her friends justly expect China to duly appreciate the moderations, benefits, and sacrifices that have been offered her. She must not mistake them for those holy saints of old, who got never tired of wasting on ingrates even their deeds of fraternal love, glorying in dying the martyr's death to save the sinners. The first duty of a government being the protection of the people's interests, no nation, however generous, has been called upon to sacrifice them beyond bounds for the sake of any other country, the least of all, of an ungrateful people, nor ever will be.

It is enough for China's friends to exhaust their limited patience at finding themselves disappointed in their just expectation, without further being treated on the same level with her worst enemies who have been gratifying their selfish desires at her expense, and, now taking advantage of her isolated helplessness, will energetically pursue, without fear of interference, their original plans of eventual absorption.

Does China hang a thread of hope on the hand of Divine Providence once more to intervene in her rescue? Her patience too has a limit. Has not Korea come to pieces through the wrath of the awful Destroyer?

Pay your debt and collect your due. This is the fundamental principle of life, individual or national. No deviation from it can escape penalty. Pay back to the utmost of your endeavours what you owe to your benefactors, to the world and, to the Creater. And you will earn autonomy and glory. By collecting your dues, you can safeguard your rights, command both respect and fear, and so preserve the proud estate of independence.

If China sincerely aims at working out her salvation, it is most imperative that she should first throw away the most absurd foreign policy of "Equal Treatment" and accept for her sole nationa lmotto this fundamental principle of life, "Pay your debt and collect your due," to initiete its arduous practice in letter and spirit this very day, and stick to it unwaveringly to the last.

If China could have held Thibet invulnerable against Russian aggression, Great Britain would never have thought of undertaking the expensive and thankless expedition, which had been inspired by no other motive than self-defense. Exposing the British interests in India to danger, yet would China forget her own incapability for autonomy and pretend to resent the other's justifiable interference, as if it were to her a suspicious trespass and an outrage on her suzerainty? Again, whatever has China lost through Great Britain's retention of Weihaiwei? Whatever trouble has it caused her during 11 years past? Whatever menace can it constitute, allowing it will yet continue? Does China remember what best reasons have induced Great Britain to occupy and keep it? China ought to know that every blame is on herself. When time arrives for its restoration, Great Britain would be only too ready to do so. But seeing the British retention is no menace to China, whoever has counselled her to press for its early restoration, if the rumours to that effect are well-grounded?

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一） 店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

京東 生蕎麥 一式 東庵 元神廟（電話百五十九）

旅館 金城ホテル 永世街百六十六號

料理 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理 旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街
さるそば 第二更科 永世街鍋の湯角

御料理 柳亭

叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡 盆人

御料理 一力 營口永世街 店主 堀万助

並ニ溫泉 毎日新湯

和洋料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一ノ七号

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業 營口ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝團挹

旅館西洋料理館 遼陽館 主任 永瀨宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 玉家 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

爲替相場（三月九日）
日本向 九十八圓二十五錢（軍票百圓に付）
上海向 七十一兩四分ノ一（同）
天津向 一百〇二圓（百弗に付）
芝罘向 天津向ト仝

油豆行情（中曆二月初九日）

日本品最近物價表 加藤洋行
紙類
一半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙 仝 七圓五十錢
一仙花紙 一帖（六十枚） 六十錢
一塵紙 一〆 一圓七十錢
一仝 一狀袋 二十枚續 三錢二厘以上四錢
室內裝飾品及寢具 矢野洋行
一蒲團 百枚 十三錢以上十八錢
一座ブトン 三枚組 六圓九十錢以上六十五圓
一煖爐 十帖 六圓五十錢以上三十五圓
一疊 五圓五十錢以上十四圓
一薄椽 十枚 二圓六十錢以上三圓
一麻緞通 一疊敷 八圓
一綿緞通 仝 三圓
一由加多織 仝 三圓五十錢 一圓七十錢

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付願上候
金城館 販賣部

特別室落成
營口金城ホテル 旅館部

藝妓仲居 新來
金城館料理部

奉天小西門外
會席御料理
高等御旅館
金城館

旅館 富喜樓
室內は極淸潔防寒之設備あり
鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案內者出張致し居候
鐵嶺城東門外南へ一丁余 南大街
樓主 敬白

御旅館 豐陽館 上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米瀛船乘船取扱
館主 米田藤吉

西海洋服店
歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

古料理 滿月
平の町（電話二）
滿月支店
平の町（元都橋跡）
店主 吉本務吉

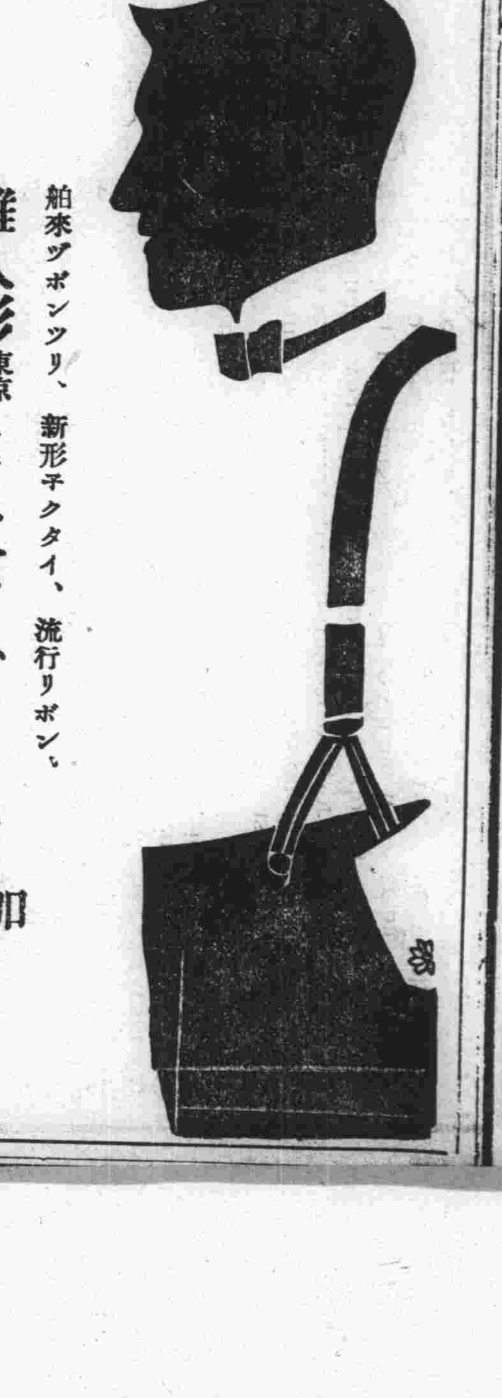
和洋 會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
一奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町 日本館本店（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店（電話十九番）
各位樣

●本日午后六時ヨリ二本町松榮座ニ於テ
●活動大寫眞
●日俄戰況幷ニ餘興元祿踊等種々

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ぶも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口 旅館料理屋同業組合

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續 但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大清通運公司 營口支店

新着！
舶來ヅボンツリ、新形ネクタイ、流行リボン、
雛人形 東京市松、はこせこ、鏡入、
貫入、蒔繪貫入、手文庫、金庫、支那鞄、柳行李、
元祿模樣、絹首卷、ハンカチーフ、花簪、
鶴香水、ばら白粉、櫛、刷毛、理髮道具類、
春模樣新柄友染、双子縞、銘仙、裏地品々、
營口 加藤洋行（電話八十番）



發賣 料木 標子 木板
淸國營口二本町二一五五號
鹽川商會
主任 鹽川峯吉（電話一三六番）
遼陽小西門內 鹽川商會

●建築用材 北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘
外に 電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干塩魚 ○石灰
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
喜久洋行
永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

標子 木板 料木 發賣
營口青堆子
清水亭木局

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 銀八十仙
半ヶ年前金 銀四弗八十仙
一ヶ年前金 銀九弗六十仙